



四万十川から、自然を・地域を・人を繋げる

## 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会を設立しました

「最後の清流」と呼ばれる四万十川は、これまで四万十市の礎として地域の文化を創り上げてきました。今日、四万十市に暮らす私たちは、アユやアカメ、テナガエビ、スジアオノリなどを育み、ヤナギ林と菜の花が生み出す美しい景観を誇る四万十川、ツル類をはじめ野鳥が舞う中筋川流域など、多様な生物や景観を有する四万十川を軸とした流域を守り、将来に引き継いでいく必要があります。

このため、令和元年12月25日、多様な主体の連携・協働により四万十川流域の豊かな自然環境を保全・再生し地域活性化を目指す「四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立しました。

第1回 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会  
【日時】令和元年12月25日(水)13:00~14:30  
【場所】四万十市役所

### 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会 委員

四万十市長	中平 正宏
四万十市教育委員会 教育長	徳弘 純一
四万十市区長会長	宮村 和輝
中村商工会議所 会頭	福田 充
一般社団法人四万十市観光協会 会長	小松 昭二
一般社団法人中村青年会議所 理事長	山沖 直樹
四万十つるの里づくりの会 会長	武田 正
四万十川自然再生協議会 会長	松本 公夫
高知野鳥の会 会長	有田 修大
国土交通省中村河川国道事務所 所長	伊賀 達也



## 記録が残る昭和40年代以降で初めて！ 四万十市で3年連続ツルが越冬しました

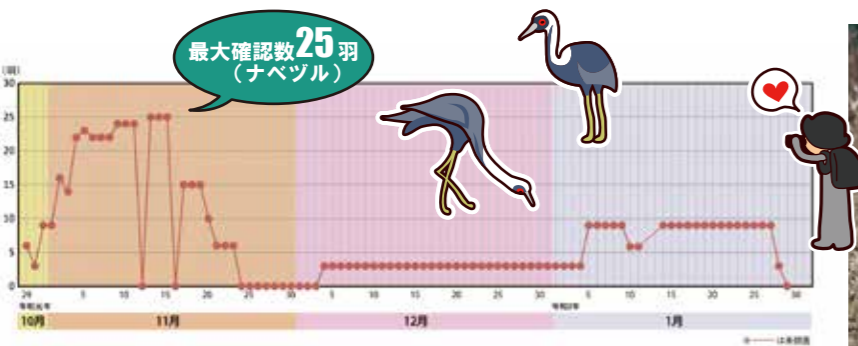


令和2年1月10日(土)、四万十市で3年連続となるツルの越冬\*が確認されました。国土交通省中村河川国道事務所は四万十川自然再生事業の一環として、ツル類の越冬環境整備を目的にツルの里づくり事業に取り組んでいます。

地域では「四万十つるの里づくりの会(事務局:中村商工会議所)」による餌場づくりや啓発活動が長年続けられてきました。

令和元年度は、平成29年、30年に続き、3羽のナベツルの越冬が確認され、記録が残る昭和40年代以降で初めて3年連続の越冬となりました。

今後は「四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」による取組の推進もあわせ、ツルが飛来する環境を守りながらツル類定着に向け地域と連携しながら取り組んでいきたいと思ひます。



※四万十川自然再生事業ではツル類が12月から1月に渡り確認され、それぞれひと月の1/3(10日)以上確認があった年を越冬と定義しています。



越冬が確認された3羽のナベツル  
(写真提供:夕部眞一氏)

# 四万十川ニュースレター vol.8

四万十川に関する様々な情報をお伝えします

国土交通省四国地方整備局と高知県では、平成27年2月に共同で策定した「渡川水系河川整備計画」に基づき、関係住民の皆様や学識経験者の方々、関係市町村等とのよりいっそうの連携・協働を図りながら、鋭意、河川整備を推進しています。また、河川整備の具体的な実施内容や進捗状況を、このニュースレターを通じて皆様にお知らせしています。



## 横瀬川ダムが完成しました！

国土交通省中筋川総合開発工事事務局が、中筋川の洪水時の流量低減を図るため、中筋川の支川横瀬川で平成15年から建設工事を行っていた『横瀬川ダム』が令和2年3月に完成しました。

長年の工事にあたり、ご協力頂いた地権者の皆様、地元住民の皆様にご心からお礼申し上げます。

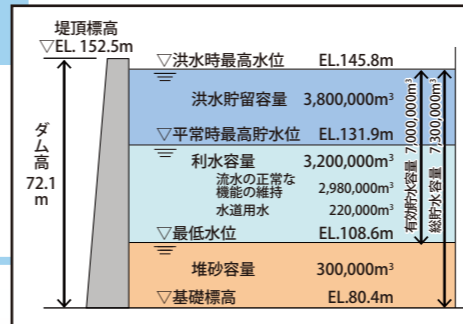
横瀬川ダムの完成により、中筋川の基準地点磯ノ川地点における河川整備の目標流量1,000m<sup>3</sup>/sに対して、平成10年に完成した中筋川ダムと合わせて360m<sup>3</sup>/sの洪水調節を行うことが可能となりました。

横瀬川ダムの完成に伴い、令和2年4月から『中筋川総合開発工事事務局』は『渡川ダム統合管理事務所』に変わり、中筋川ダムと横瀬川ダムの2ダムを統合管理して、洪水時の流量低減を図ってまいります。



令和2年3月6日撮影

貯水池容量配分図



諸元

位置	(左岸)高知県宿毛市山奈町山田 (右岸)高知県宿毛市山奈町山田		
型式	重力式コンクリート	洪水調節方式	自然調節方式
堤頂標高	EL.152.5m	堤体勾配	上流面:鉛直 下流面:1:0.71
堤高	72.1m	地質	砂岩・頁岩及び砂岩頁岩互層を主体
堤頂長	188.5m	集水面積	11.4km <sup>2</sup>
堤体積	170,000m <sup>3</sup>	湛水面積	0.4km <sup>2</sup>
放流設備	[常用]オリフィスゲート 幅1.55m×高1.8m×2門 [非常用]自由越流堤 幅6.2m,6.0m,5.0m各2箇所(越流水深4.5m)		

## 渡川水系河川整備計画とは

渡川水系河川整備基本方針(平成21年2月9日策定)に基づき、四万十川、後川、中筋川の総合的な管理ができるよう河川整備の目標および実施に関する事項を定めたものです。その対象期間は、概ね30年間としています。

## 渡川水系河川整備計画の基本理念

安全で安心な生活を営むことができる川づくり  
恵まれた自然を育む清流としての川づくり  
次世代に誇れる豊かな川づくり

## 編集・発行

国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所 〒787-0015 四万十市右山 2033-14 TEL 0880-34-7301(代) URL <a href="http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/">http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/</a>	国土交通省 四国地方整備局 渡川ダム統合管理事務所 〒788-0781 宿毛市平田町黒川字榎ヶ崎山 5312-48 TEL 0880-66-2501 URL <a href="http://www.skr.mlit.go.jp/watarigawadam/">http://www.skr.mlit.go.jp/watarigawadam/</a>	高知県 土木部河川課 〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20 TEL 088-823-9838 URL <a href="http://www.pref.kochi.lg.jp/">http://www.pref.kochi.lg.jp/</a>
---	---	---

## 三者の連携で地域をまもる

### 相ノ沢川総合内水対策事業に着手しました！

平成26年6月4日に発生した低気圧により、中筋川沿川の楠島雨量観測所では観測史上最大となる24時間雨量468mmを記録し、中筋川流域では床上浸水71戸、床下浸水25戸という甚大な家屋浸水被害が発生するとともに、具岡・楠島地区を結ぶ国道56号線が冠水し約19時間通行止めとなりました。

この豪雨災害を受けて、平成27年6月に国土交通省、高知県、四万十市において「相ノ沢川総合内水対策協議会」を設立し、三者が連携してハード、ソフト両面からの内水対策の検討に着手しました。協議会での検討を重ね、平成28年8月に三者が連携し平成26年6月梅雨前線豪雨による家屋の床上浸水被害の解消を図ることを目的とした「相ノ沢川総合内水対策計画」を策定しました。



#### 内水対策計画の整備メニュー

##### ハード対策

###### 国土交通省

- ・楠島川放水路の排水樋門の新設
- ・排水ポンプ車による内水排除
- ・横瀬川ダムの整備 など

###### 高知県

- ・相ノ沢川と楠島川の河川改修
- ・楠島川の放水路新設 など

###### 四万十市

- ・既存の雨水貯留施設の改修
- ・排水機場の新設 など

##### ソフト対策

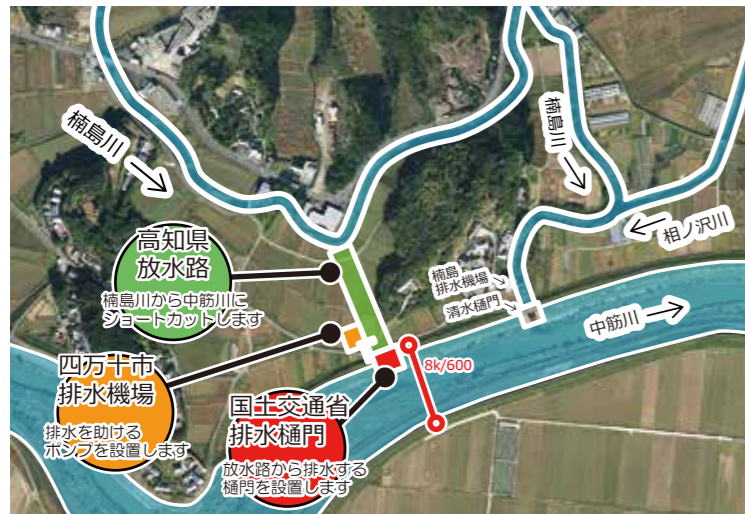
###### 国土交通省 + 高知県

- ・河川水位、内水センサーなどの情報提供体制の整備

###### 四万十市

- ・ハード対策の整備効果を維持するため土地利用に関するルールづくり
- ・防災意識の向上と避難体制の充実のため住民への防災情報の提供
- ・防災訓練の実施 など

国土交通省四国地方整備局では本計画に基づき、令和元年より楠島川排水樋門の新設工事に着手しました。また、高知県による放水路工事も進捗中であり、三者連携により計画策定から概ね5年での内水対策効果発現を目指します。



#### 楠島川排水樋門完成イメージ図



## くらしと風景をまもる

### 初崎堤防工事、進行中！ 樋門のゲート設備も完成

平成29年度から本格着手した四万十川初崎地区の堤防工事では、令和元年度に樋門\*のゲート設備が完成しました。

これからも堤防の無かった初崎地区を洪水や高潮、地震発生時に想定される津波から守るため安全第一で工事を進めてまいります。

#### ▼上空より



川側 (令和2年2月21日撮影)



居住地側 (令和2年2月24日撮影)



◀◀ 初崎堤防のゲート設備

▼ 初崎堤防



(令和2年3月9日撮影)

\*樋門とは、堤防の中を通したコンクリートの水路で、ゲートがついています。平常時には、居住地側の水路や小河川から出た排水を四万十川に流す役割を担います。また、洪水時にはゲートを閉じ、四万十川本川の水が居住地側に逆流してくるのを防ぎます。

## 洪水時の水を安全に流下させるために

### 四万十川・中筋川・後川で河川内の樹木伐採工事を実施

防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策工事の一環として、洪水時の水を安全に流下させるため、四万十川・中筋川・後川の河道内に繁茂した樹木の伐採や河道内に堆積した土砂を取り除く工事を行っています。

この内、四万十川右岸8k200付近や後川左岸1k200付近では高水敷に繁茂した樹木伐採により、洪水時の水の安全な流下に加え、高水敷から川を眺めることができるようになりました。

令和2年度も、引き続き河道内の樹木伐採や堆積土砂の掘削工事を推進しますが、地域の皆様一人一人が台風などの際は自治体から出される情報や気象、河川の情報から確認し、命を守る行動を心がけてください。

#### 四万十川右岸8k200

##### 伐採前 → 伐採後

橋が見えるようになりました



#### 後川左岸1k200

##### 伐採前 → 伐採後

すっきり!

